



平成24年度

市長施政方針

～笑顔きらめく

“ほっと”なまち あげお

を目指して～



市長 島村 穰



⇒秘書室 (TEL)775-3849・(FAX)775-9861)

昨年3月11日に発生した東日本大震災から、早くも1年が経過しました。

未曾有の被害をもたらした大震災は、世界経済の急激な減速と相まってわが国に大きな影を落とし、特に日本経済を押し量る上で重要な要素である貿易収支は、31年ぶりの赤字に転落するなど、広範かつ深刻な影響を与えています。

去る、2月13日に内閣府から発表された2011年10～12月のGDP(国内総生産)の速報値は、復興需要の高まりと設備投資が景気をけん引するも、欧州債務危機による海外経済の減速や歴史的な円高による影響もあり、前期比マイナス0・6割、年率換算マイナス2・3割と、2四半期ぶりのマイナス成長になり、市場予測を下回りました。

また先月発表された「将来推計人口」では、わが国の2060年の総人口が8,674万人になり、うち65歳以上の高齢者が4割を占めるといふ衝撃的な数字が公表され、世界でも例を見ないスピードで「超高齢人口減少社会」の到来が現実になっています。

上尾市は高度経済成長期以降、個人市民税を主たる財源として市民の皆さんが支えてきてくれましたが、15～64歳の生産年齢人口の半減は看

過できない事態であり、長期的な視野に立った社会保障政策の練り直しはもちろん、日本の未来のために、出生率向上に向けた対策や新たな子育て支援の見直しは、決して避けることのできない喫緊の課題になっていきます。

閉塞感を打破するために

長引く景気低迷と急速な超高齢社会の到来により、地方自治体でも例外なく苦しい財政状況が続きますが、地方の減速は日本の衰退へと直結します。

江戸中期、藩の置かれた状況を詳細に説明し、広く領民から得た意見により、財政改善に成功した事例があります。

18世紀半ば、現在の長野県にあった松代藩は、幕府からの度重なる普請や藩内の大火事、大水害により、財政は困窮・荒廃の極みに達していました。

農民による一揆なども発生する中、現在の財務・民生担当にあたる勝手掛に就任した恩田木工(民親)は、領民の意見を広く聴く機会を設けるとともに、貨幣経済の到来を見越し、年貢の一部を米でなく金銭による月納制として、慢性的な借金財政を改善するきっかけをつくりました。

特筆されるのは、身分制度が厳しい時代の中で、武士・農民・町人などの全領民の代表を城に呼び、「対話」によるコミュニケーションを大切にしながら全員をしっかりと納得させた上で、自らが目指す改革へと向かわせたことです。

西欧の民主革命より前の18世紀半ばの日本で、このような領民参加による政治が実現されていたことは驚嘆すべきことであり、これは、わが国に日本的民主主義というべき伝統が根差していることを示しています。

組織が硬直化する中で「対話」を重んじた恩田木工の改革は、参加をすることで責任を生む、現在でいう「協働」の精神を育てるといふ財産を残し、幕末には指折りの裕福な藩へと変貌させました。

閉塞感がまん延する今、まさに私たち行政がこれから目指していかなければならない手本でもあります。

「マニフェスト」「上尾が輝く8つのキラリ☆パート2」

私は、2期目の就任に当たり、市民の皆さんや民間企業などの発想と創意工夫を取り入れ、コスト削減と市民サービスの向上を両立するための新マニフェスト「上尾が輝く8つのキラリ☆パート2」を掲げました。このマニフェストでは、「市役所



の透明化と財政健全化」、「さらなるコスト削減」、「にぎわいのある街の創造」、「防災体制の強化」、「健康で心豊かな環境づくり」、「次代を担う子どもたちの育成」、「安全で安心な利用しやすい公共施設の整備」、そして「エコシティ上尾の推進」の八つを大きな柱に掲げ、これらを39項目の約束に変えて、新たな4年間に向けた目標として、全力で取り組んでいく覚悟です。

次代を担う子どもたちのために

長引く景気低迷と人口減少、そして、さらなる超高齢社会に足を踏み入れようとしているわが国では、安定を確保することすら容易ではなく、挑戦することは大きな困難との戦いになります。しかし、厳しいときこそ足元を固め、10年先、20年先を見据えながら一歩でも前へ進むことは、やがて次代を担う子どもたちの明るい未来へとつなげる、力強いバトンになると確信しています。

これからの地方行政に、近道はありません。今後も、上尾が目指していく将来都市像である「笑顔きらめくほっとなまち あげお」の実現に向けて勤儉力行に励み、市民の皆さんと共に、多くの知恵と工夫を持って一歩ずつ前へと進んでまいります。

平成24年度 予算のあらまし

～『笑顔きらめく“ほっと”なまち あげお』の実現に向けて～

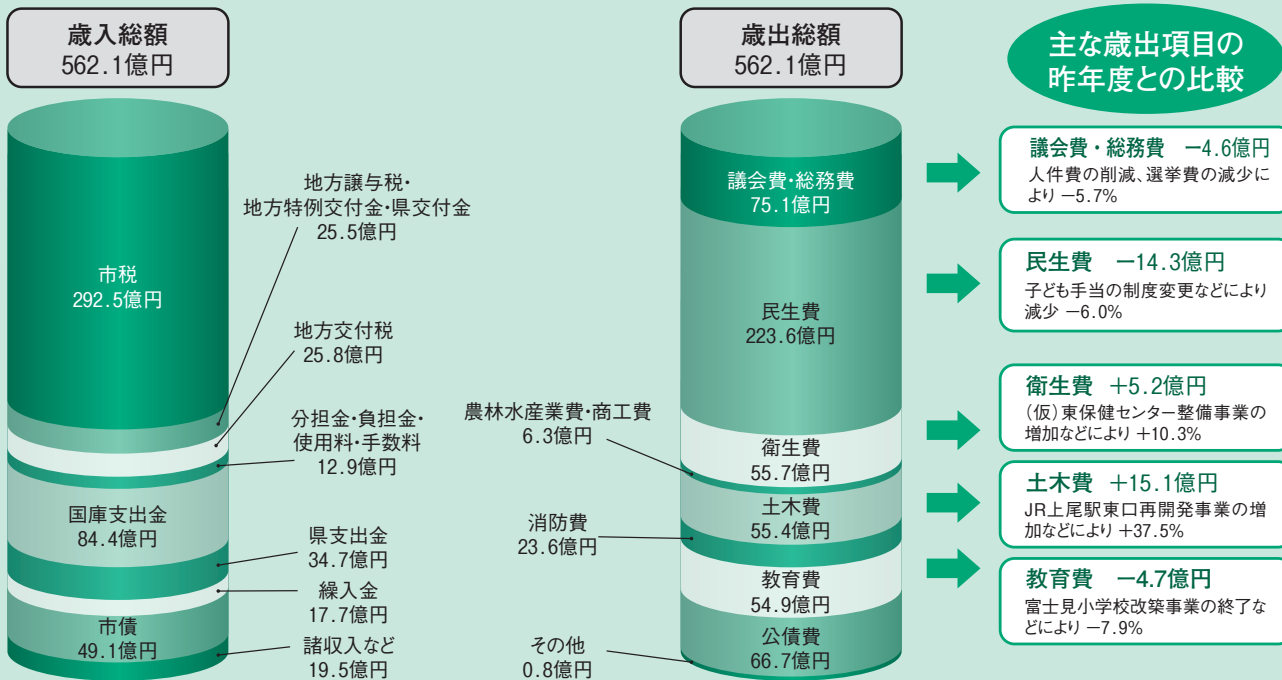
⇒財政課(☎775-4247・☎776-8873)

平成24年度予算は、景気の低迷で税収が落ち込むなどの厳しい財政状況の中、東日本大震災の教訓を踏まえて、市民の皆さんの安全・安心の確保に重点を置いて編成しました。

具体的には、防災対策や省エネルギー対策を強化するとともに、子育て・健康づくり支援、教育環境整備、まちづくり施策のさらなる充実など、第5次総合計画に掲げる将来都市像「笑顔きらめく“ほっと”なまちあげお」の実現に向けた予算になっています。主な事業に関しては4～6ページをご覧ください。

予算とは、1年間の収入と支出の見込みを表したものです。市の基本的な仕事をするための一般会計予算は、562億1千万円(子ども手当などの国の制度変更などにより前年度比1.0%減)になりました。また特別会計と企業会計を含めると1,031億8千万円(前年度比2.1%増)になっています。

一般会計予算の状況





子育て・健康づくり支援

こども医療費の無料化

7億5,985万円

中学校修了までの入院と通院分の医療費の無料化の継続

【国補助金 9,193万円活用】



各種がん検診の実施

1億7,159万円

乳がん検診などの無料化の継続と、受診率を向上させるため、対象者全員へ個別通知を開始

【国補助金 2,467万円活用】

(仮)東保健センターを整備

8億5,442万円

緑丘地内に母子保健事業などを中心とした新たな地域保健の拠点を整備(平成25年度中にオープン予定)



完成予想図

各種予防接種の実施

5億7,612万円

子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌のワクチン接種の無料化の継続など

【国補助金 9,192万円活用】

不妊治療費の助成

600万円

市独自の助成制度を創設

(県の助成金に上乗せ 上限5万円/年、通算5年)

平成24年度の主な事業

◎新規・拡充した事業を中心に掲載しています。

教育環境整備

子どもの読書活動支援センターを新設

409万円

家庭、地域、学校が連携し、子どもの読書活動を推進(富士見小学校図書館内に新設)

さわやかスクールサポート事業の展開

9,822万円

よりきめ細かな学習指導や学級運営を実施するため、学級担任を補佐する「アップスマイルサポーター」を70人配置するとともに、「アップスマイル学校図書館支援員」を全小学校へ配置 他

中学校教室にエアコンを整備

3,540万円

全中学校の普通教室に整備(7月から稼働予定)
⇒全ての公立保育所、幼稚園、小・中学校への整備が完了

中央小学校の校舎改築(※)

3億5,676万円

中央小学校の南校舎を改築(平成23～25年度までの3カ年事業 総事業費12.4億円)

【国補助金 6,135万円活用】



完成予想図

小・中学校の大規模改造・耐震補強(※)

9億1,105万円

小学校6校、中学校4校の大規模改造・耐震補強工事(平成24年度末の小・中学校の耐震化率 約9割)

【国補助金 2億8,686万円活用】

小・中学校にALTを配置

1億490万円

全ての小・中学校へALT(外国語指導助手)の配置を継続





防災対策

地域防災計画の改訂

185万円

東日本大震災の教訓を生かし、初動体制などの抜本的な見直し

防災備蓄の強化

882万円

主食用食料品や毛布などの備蓄を強化

自主防災会への支援

1,841万円

防災備品の充実のための新たな緊急補助金の創設や、防災士の資格取得のための支援

境橋の架け替え

1,060万円

東日本大震災で破損した^{さかい}境橋(原市地内)の設計(平成27年度完成予定)
【県・伊奈町負担分 668万円】

被災地復興支援

930万円

岩手県陸前高田市と福島県本宮市への継続的な支援

消防緊急通信指令システムの更新

763万円

発信地表示システムの導入など、伊奈町と共同で新指令システムを整備(平成25年3月から運用開始)
【伊奈町負担分 206万円】

市民体育館の大規模改造・耐震補強

6億1,470万円

耐震補強工事とともにメインアリーナの床の張り替えや、空調の改修(平成25年4月改装オープン予定)
【スポーツ振興くじ助成金 3,000万円活用】

防災ラジオの配布

137万円

災害情報の迅速な伝達のため、全自主防災会に配布

橋りょうの長寿命化(※)

1,500万円

市管理の全橋りょう(67橋)の点検と長寿命化修繕計画の策定
【国補助金 660万円活用】

公園遊具の点検

451万円

子どもの安全のため、市内全ての公園遊具の点検



まちづくり施策

自転車のまちづくりを推進

194万円

基本計画の策定や、自転車レーン社会実験・健康モニター事業の実施

原市駅のバリアフリー化

2,402万円

ニューシャトル原市駅のバリアフリー化に向け、エレベーターや多目的トイレを設置するための設計

上尾中山道東側地区市街地再開発

16億9,849万円

再開発ビルの建設に対する補助(平成24年度中に完成予定)
【国・県補助金12億7,198万円活用】

上尾道路周辺整備

618万円

領家工業団地から国道17号(上尾道路)までのアクセス道路の整備や、畔吉地区の市道拡幅に着手

JR上尾駅東口 ペDESTリアンデッキを延伸

2億5,144万円

再開発ビルまで延伸(平成24年度中に完成予定)
【国補助金 1億円活用】



省エネルギー対策

本庁舎の節電対策

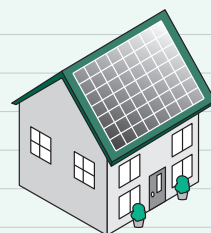
2,218万円

市役所本庁舎事務室の全照明器具のLED化による電気使用量の抑制

省エネ対策補助金の拡充

1,000万円

<新規>電気自動車購入(5万円/台)
<新規>電動バイク購入(1万円/台)
<増額>太陽光発電設置(1万円/kw)



(※)繰り越しにより新年度に実施する事業です。



その他

上尾市産業振興ビジョンの策定

488万円

商業・工業・農業・観光の連携により今後の産業振興の方向性を示すとともに、施策の実施計画の策定

緊急医療情報キットの配布

313万円

緊急時に必要な、かかりつけ医や持病などの医療情報を保管する容器を65歳以上の単身世帯や障害がある人などに配布

緊急雇用機会の創出

1億114万円

東日本大震災以降に離職を余儀なくされた労働者の雇用機会の創出（路上喫煙防止事業など6事業、47人雇用予定）

【県補助金 1億114万円活用】

地域包括支援センターの増設

1,367万円

（介護保険特別会計）
原市地区に地域包括支援センターを増設（市内10カ所体制へ）

障害者就労支援センターの拡充

1,353万円

相談室の増設と障害者用トイレなどの新設



路上喫煙禁止啓発パトロール員

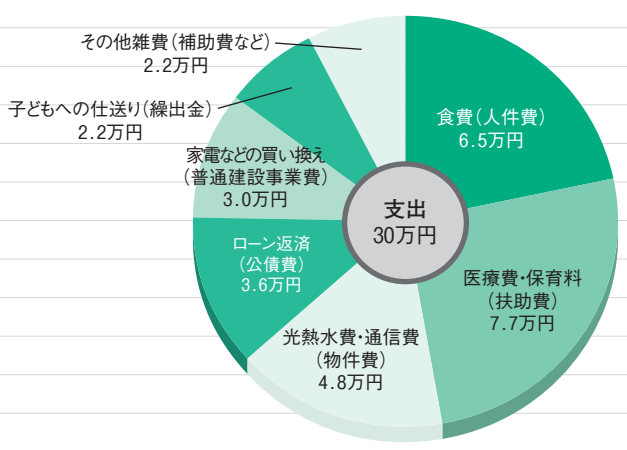
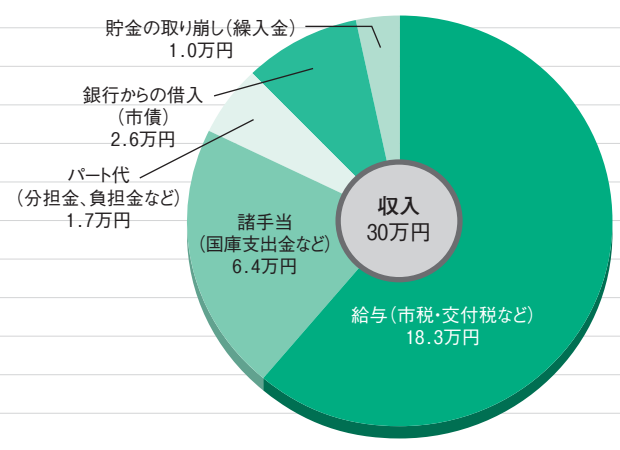
平成24年度の市の予算を市民1人あたりに換算すると

市の一般会計当初予算562億1千万円を市民1人あたりに換算すると次のようになります。
（平成24年4月1日現在の人口〈22万7,217人〉で算出）

議会・総務費 3万3,000円 議会運営や選挙、戸籍、徴税、庁舎管理など 	民生費 9万9,000円 子育て支援、高齢者や障害のある人へのサービスの提供など 	衛生費 2万5,000円 ごみ、し尿の処理、環境対策、健康推進など 	農林水産業・商工費 3,000円 農業や商工業の振興 	1人当たりの支出額 24万7,000円
土木費 2万4,000円 道路、河川、公園の整備・管理などのまちづくり 	消防費 1万円 消防・救急活動や災害対策など 	教育費 2万4,000円 学校、図書館、公民館などの管理運営、文化・スポーツの振興 	公債費 2万9,000円 公共施設整備などのために借り入れた市債の返済 	

平成24年度の市の予算を家計(月30万円)に例えると

市役所と家庭では単純に比較できませんが、平成24年度の市の一般会計予算を家計に例えると下図のようになります。





市長 キラリ通心



つながる喜び、分かち合う大切さ

市長 島村 穰

市民の皆さん、こんにちは。市長の島村です。草花が生き生きと輝き、自然の力強い生命力を感じる季節を迎えましたが、いかがお過ごしでしょうか。

先日、皆さんにお伝えしたい、とてもうれしいことがありました。

被災地支援のために市から岩手県陸前高田市へ派遣していた職員が、派遣期間を終えて被災地の近況報告とともに、1枚の写真を見せてくれました。写真には笑顔の女性が4人、皆さんは東日本大震災で被災され、臨時職員として陸前高田市役所で復興のために働いているそうです。4人が着ているのは、昨年9月号の市長キラリ通心で紹介した、UDトラックス株式会社からご提供いただき、市内の中学生が心を込めて「がんばろう東北」と刺しゅうしてくれた作業服でした。作業服は皆さんにとっても喜ばれ、今も多くの方に着ていただいているそうです。

中学生たちの優しい気持ちが400キロも離れた東北の地に届き、「刺しゅう糸」という、細くても絶対に切れない糸で心と心がつながったことを感じ、本当にうれしい気持ちになりました。

皆さんは、「おにぎりとおみそ汁」という作文をご存知でしょうか。福島県浪江町の小学4年生の女の子が、震災直後に避難所で食べた小さな白いおにぎりとおみそ汁を題材に、食べ物のありがたさ、そして多くの人とのつながりに感謝をして綴ったものです。被災地へ派遣した職員からの報告を受け、この作文を思い出しながら、「私たちはいつも誰かに支えられ、つながりを持ち、喜びも悲しみも分かち合いながら生きている」と強く感じています。

5月12日(土)・13日(日)、市が継続的に支援している岩手県陸前高田市と福島県本宮市の子どもたちが、野球を通じて交流を図るため上尾市を訪れます。爽やかな春の空の下、心がつながる喜び、そして分かち合う大切さを感じてくれることを期待しています。



作業服を着て笑顔を見せる陸前高田市臨時職員の皆さん

東日本大震災

義援金の受付期間を延長

⇒社会福祉課(☎775-5118・☎776-8872)

日本赤十字社の受付期間延長に合わせて、上尾市としても9月30日(日)まで募金箱の設置期間を延長します。

募金箱の設置場所は、市役所、各支所・出張所、総合福祉センター、コミュニティセンターの計10カ所です。その他、口座振り込みなどの方法もありますが、詳しくは日本赤十字社ホームページ(<http://www.jrc.or.jp/>)をご覧ください。

3月15日現在の上尾市における募金総額は、57,831,496円です。皆さんの多大なるご協力に感謝申し上げます。

お預かりした義援金は、日本赤十字社に送金します。その後配分委員会で、被害状況などに応じ配分金額が決定され、その基準に基づき各自治体を通じて被災者に届けられます。

引き続き皆さんのご理解とご協力をお願いします。

●副市長の選任
3月31日で任期満了の副市長に、後藤文男氏を再び選任することが同意されました。

●公平委員会委員の選任
公平委員会委員に関根章正氏を選任することが同意されました。

3月定例会市議会は、2月28日～3月22日の24日間の会期で開かれ、平成24年度当初予算をはじめ、上尾市災害対策基金条例の制定などの議案が審議されました。
このうち市長提出の34議案は、全て原案どおり可決または同意されました。

3月定例会市議会 平成24年度
当初予算などを可決・同意

庶務課 ☎775-4963
☎775-9819



後藤文男氏／昭和47年に上尾市職員になり、議会事務局議事調査課長、福祉部保育課長、総務部職員課長、総務部次長、総務部長などを歴任。平成20年4月から上尾市副市長。62歳。